



【オンデマンド研修】
令和2年度東部地区幼保小連携・接続推進研修会

学びをつなぐ幼保小連携と接続

-幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて-

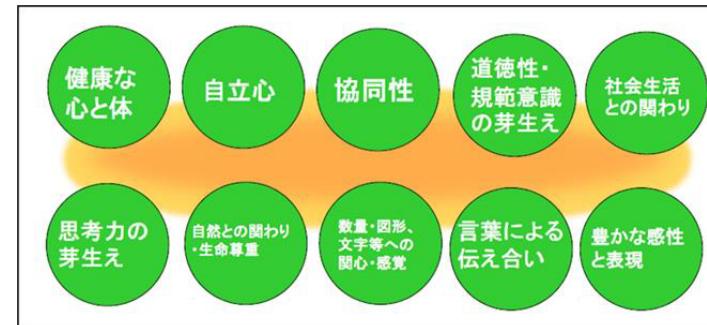
GIFU SHOTOKU GAKUEN UNIV. 西川 正晃

✉ masaaki@gifu.shotoku.ac.jp

面影小学校、さくら幼稚園・保育園、白ゆり保育園 幼保小連携推進の方向性

- 学びに向かう力を育てるカリキュラムの創造
- ✓ 学びに向かうことが可能なスタートカリキュラムをデザインする。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有
- ✓ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、遊びや学習での学びの姿を理解する。
- 育てたい子どもの力の描き出し
- ✓ 学区全体で育てたい子どもの姿や力を教職員が共有する。
- 保育・授業等の質的向上。
- ✓ 育てたい力に視点を当てた、日常的で必要感のある普段の保育や授業、交流活動の実施と省察。

- 小学校入学当初においては、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことを重視。



- 互いの保育・授業を参観し合う。
- 「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を参考に、子どもの学びや育ちについて語り合う。
- 担任(担当)する目の前の子どもを育てたいという願いから、日々の保育や授業を大切にする。

☞この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

幼保小の連携で、頭に浮かんでくるもの(活動、取り組み、イメージなど)を、キーワードにしてください。

●ワーク2

どんな「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されているか書き出しましょう。

●ワーク3

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校でどのように活用できるでしょうか？

●ワーク4

幼保小の連携と接続で大切にしたいことは何ですか？

(小学校教育の立場・幼児教育の立場、どちらであるかを明確にして)



ワーク1

幼保小の連携で、頭に浮かんでくるもの(活動、取り組み、イメージなど)を、キーワードにしてください。

学習指導要領など改訂の基本方針

○改訂の基本方針

今回の改訂は中央教育審議会答申を踏まえ、次の基本方針に基づき行った。

① 今回の改訂の基本的な考え方

ア 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成と、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の重視

イ 知識の理解の質を更に高めた確かな学力の育成

ウ 道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実による豊かな心や健やかな体の育成

学習指導要領など改訂の基本方針

○ 教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、グローバル化の進展や人工知能(AI)の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指す。そのため、学校教育の中核となる教育課程や、その基準となる学習指導要領及び幼稚園教育要領(以下「学習指導要領等」という。)を改善・充実。

○ 現行学習指導要領等に基づく真摯な取組が、改善傾向にある国内外の学力調査の結果などに表れてきている一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることや、社会参画の意識等については課題。社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」の理念を具体化し、教育課程がその育成にどうつながるのかを分かりやすく示すことが重要。

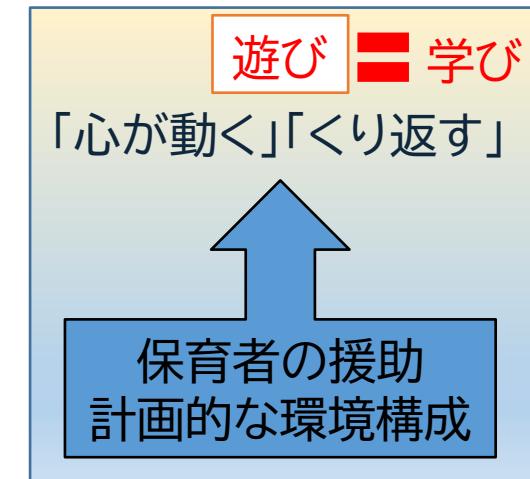
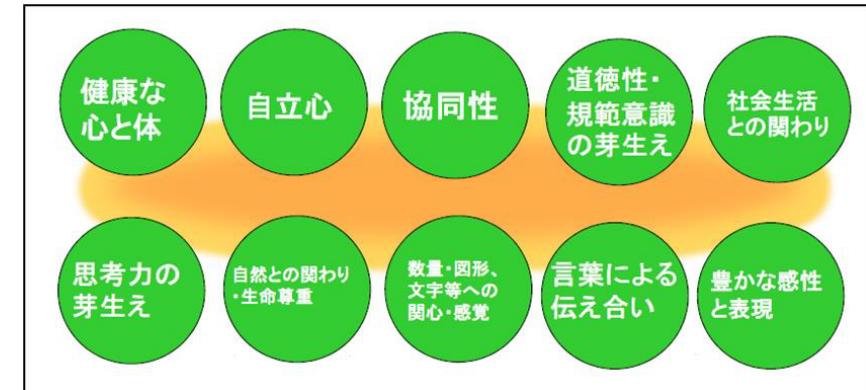
平成28年10月31日教育課程部会 幼児教育部会(第10回)
資料1 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめのポイント
(※教育課程部会 掲載資料(PDF)ハリンク)

幼児教育部会における審議の取りまとめについて(報告)平成28年8月26日 幼児教育部会

3. 幼児教育において育みたい資質・能力と幼児期にふさわしい評価の在り方について

(1) 幼児教育における「見方・考え方」

○ 幼児教育における「見方・考え方」は、幼児がそれぞれの発達に即しながら**身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね遊び**が発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすることである。



幼児教育部会における審議の取りまとめについて(報告)平成28年8月26日 幼児教育部会

1. 現行幼稚園教育要領等の成果と課題

- また、近年、国際的にも忍耐力や自己制御、自尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力といったものを幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるという研究成果をはじめ、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えるという調査結果などから、幼児教育の重要性への認識が高まっている。
- さらに、平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」が実施されたことにより、幼稚園等を通じて全ての子供が健やかに成長するよう、質の高い幼児教育を提供することが一層求められてきている。
- このため、前述のような研究成果や調査結果を踏まえつつ、幼稚園のみならず、保育所、認定こども園を含めた全ての施設全体の質の向上を図っていくことが必要となっている。

保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ 平成28年8月8日 社会保障審議会（保育専門委員会）

1. 保育所保育指針の改定の方向性

(1) 乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実

(乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性)

○近年、国際的にも、自尊心や自己制御、忍耐力といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果などから、乳幼児期、とりわけ3歳未満児の保育の重要性への認識が高まって

いる（学びの芽生え）

○乳児期から、子どもは、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わっていこうとする。このような姿は「学びの芽生え」といえるものであり、生涯の学びの出発点にも結びつくものである。

○乳児から2歳児までの時期においては、子どもの発達が飛躍的に進み、様々な成長の段階の姿が見られるという特徴があることから、専門職である保育士によって、それぞれの子どもの発達過程に応じた「学び」の支援が、生活や遊びの場面で、適時・適切に行われることが重要である。また、その際、発達の連続性を意識するとともに、3歳以降の成長の姿についても意識して、保育を行うことが重要である。

認知能力

(Cognitive abilities)

IQ テストなどで知られる言語、論理、記憶、空間把握能力など主に「脳の機能」に由来する能力。

非認知能力

(Non-Cognitive abilities)

社会情動的スキルとも言われるもので、好奇心や柔軟性、協調性、忍耐力、ストレス対応力など「心の動き」に由来する能力。

非認知能力は、OECDでは社会情動的スキルと言う。IQなどで数値化される認知能力と違って目に見えにくいが、「**学びに向かう力や姿勢**」とも言い表せる。

意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢が中心になる。

保育所保育指針の改定に関する中間とりまとめ 平成28年8月8日 社会保障審議会（保育専門委員会）

○ また、特に、小学校との接続に関しては、平成22年に取りまとめられた「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」等を踏まえた、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」（健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、数量・図形、文字等への関心・感覚、言葉に社会による伝え合い、豊かな感性と表現）を念頭におき、卒園後の学びへの接続を意識しながら、5歳児後半の幼児の主体的で協同的な活動の充実を、より意識的に図っていくことが重要である。

新 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

イ幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

新 幼稚園教育要領

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

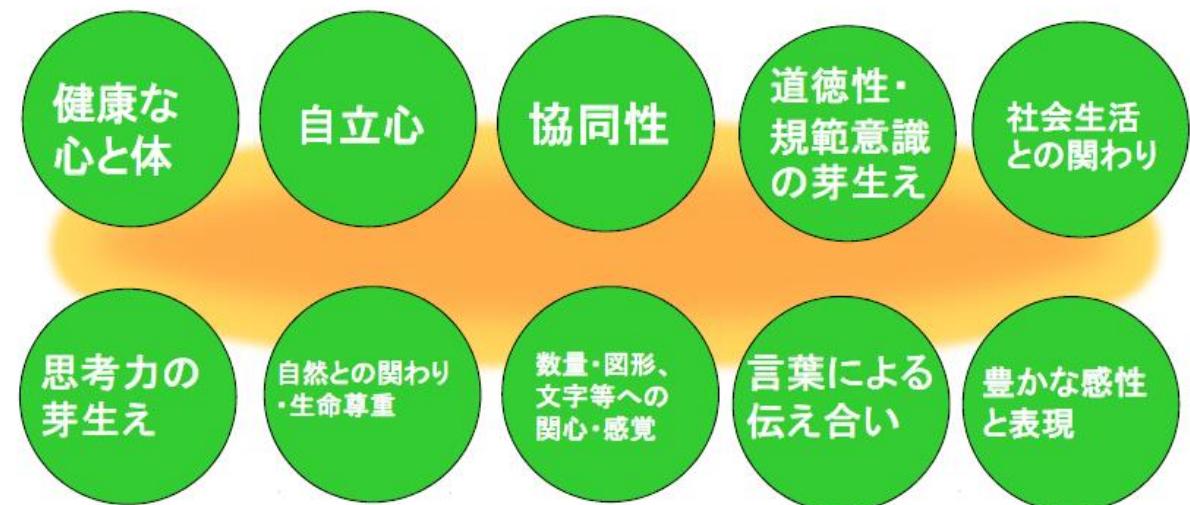
新 保育所保育指針

(2) 小学校との連携

イ保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図ること。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の整理イメージ

資料2



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

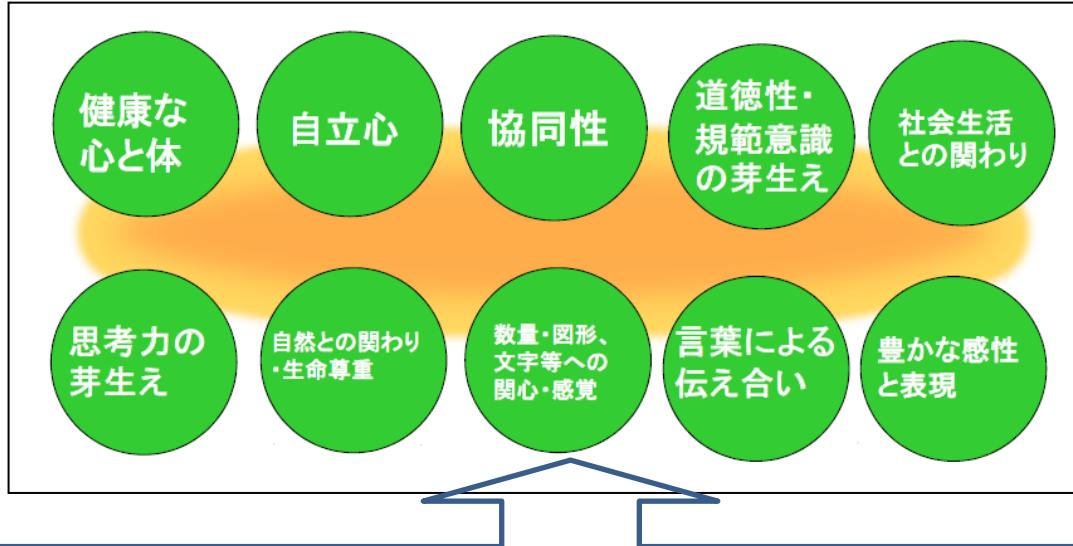
※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

ポイント！

実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。

幼稚園教育要領解説 p52

幼児期の終わりまでに育つてほしい姿



自分から興味をもって環境に主体的に関わる姿

健康:自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ

自立心:身近な環境に主体的に関わる

協同性:目的の実現に向けて

道徳性:様々な体験を重ねる中で

社会生活:様々な環境に関わる中で

思考力:積極的に関わる中で…自ら判断したり

自然…:身近な動植物に心を動かされる中で

数量…:自らの必要感に基づき

言葉…:心を通わせる中で

…表現:心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で

遊び = 学び

「心が動く」「くり返す」



保育者の援助
計画的な環境構成

心が動く　くり返す

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



学習

“就学前の教育・保育”は、“木の根を太く・大きくするようなもの”



尼崎市就学前の子どもの教育・保育についての基本的な考え方 リーフレット(案)より

幼児期の学び

遊び

幼児の生活は、そのほとんどは興味や関心に基づいた自発的な活動からなっている。この興味や関心から発した直接的で具体的な体験は、幼児が発達する上で豊かな栄養となり、幼児はそこから自分の生きる世界や環境について多くのことを学び、様々な力を獲得していく。興味や関心から発した活動を十分に行なうことは、幼児に充実感や満足感を与え、それらが興味や関心を更に高めていく。

幼稚園教育要領解説p34

【幼児教育の意義及び役割】

この幼児期の発達の特性に照らした教育とは、受験などを念頭に置き、専ら知識のみを獲得することを先取りするような、いわゆる早期教育とは本質的に異なる。

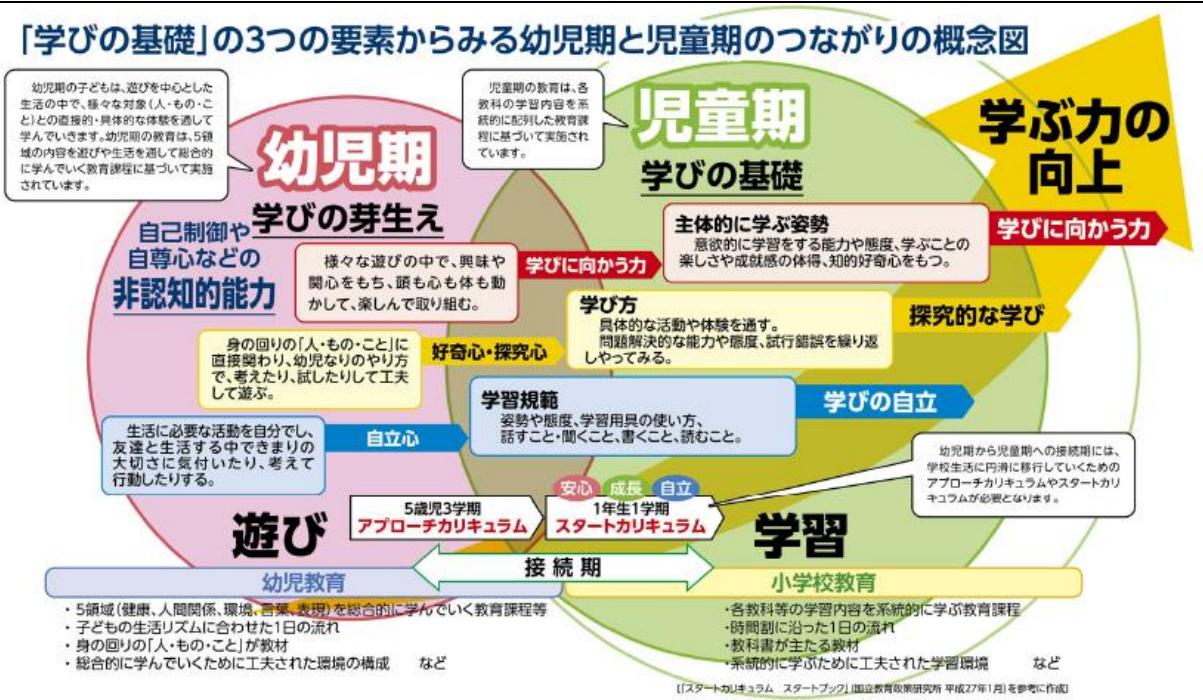
幼児教育は、目先の結果のみを期待しているのではなく、生涯にわたる学習の基礎を作ること、「後伸(あと)のびする力」を培うことを重視している。

幼児は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解できることにつながる「学習の芽生え」を育んでいる。

このような特質を有する幼児教育は、幼児の内面に働き掛け、一人一人の持つ良さや可能性を見いだし、その芽を伸ばすことをねらいとするため、小学校以降の教育と比較して「見えない教育」と言われることもある。

中央教育審議会答申(抄)「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」
－子どもの最善の利益のために幼児教育を考える－平成17年1月28日

「学びの基礎」の3つの要素からみる幼児期と児童期のつながりの概念図



学びの基礎指導の手引き改訂版、滋賀県教育委員会、2017

スタートカリキュラムの必要性

ゼロからのスタートじゃない!

子供は幼児期にたっぷりと学んできています



文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月

スタートカリキュラムの必要性

小学校低学年では、幼稚期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、児童の資質・能力を伸ばしていく時期である。



- 幼児期の終わりまでに育つてほしい姿を手がかりに理解。
- 幼児期の終わりまでに育つてほしい姿を踏まえた指導。

小学校学習指導要領解説総則編(平成29年)
第3章第2節4学校段階間の接続(1)幼児期の教育
との接続及び低学年における教育全体の充実より

スタートカリキュラムの必要性

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
を踏まえた指導を工夫



- 児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようする。
- 小学校入学当初においては、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことを重視。
- 学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導、弹力的な時間割の設定の工夫・指導計画の作成を行う。

小学校学習指導要領第1総則(平成29年告示)
に新設された「学校段階間の接続」

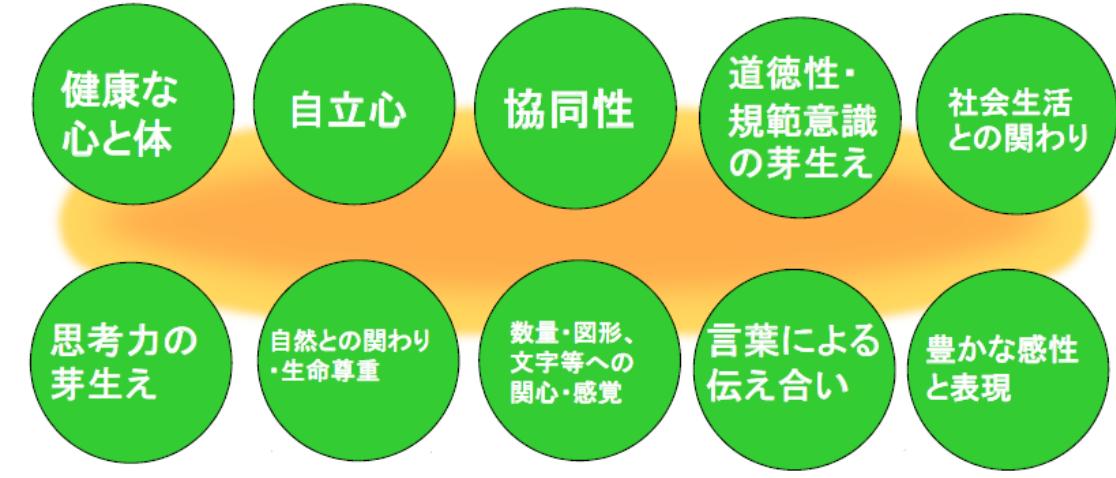
演習



ワーク2
どんな「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が發揮されているか書き出しま
しょう。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の整理イメージ

資料2



ワーク3
「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」を小学校でどのように活用できるでしょうか？

スタートカリキュラムのデザイン

一人一人の子供の成長の姿から編成しよう

入学時の子供の発達や学びには**個人差**があり、それぞれの経験や幼児期の教育を踏まえたきめ細かい指導が求められます。

そのためにも、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読んだり、実際に幼稚園・保育所等を訪問し教職員と意見交換をしたり、要録等を活用したりして、**幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を生かして**スタートカリキュラムを編成しましょう。

子供の発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫しよう

入学時の子供は、**鉛筆や教科書を使う学習に憧れ**をもっています。一方、長い時間、じっと椅子に座って学習することが難しく、**身体全体を使って学ぶ**という発達の特性があります。

この時期の子供の学びの特徴を踏まえ、例えば、20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動性のある学習活動を行ったりするように工夫しましょう。

スタートカリキュラムのデザイン

生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶ
子供の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図りましょう。このような指導により、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となります。

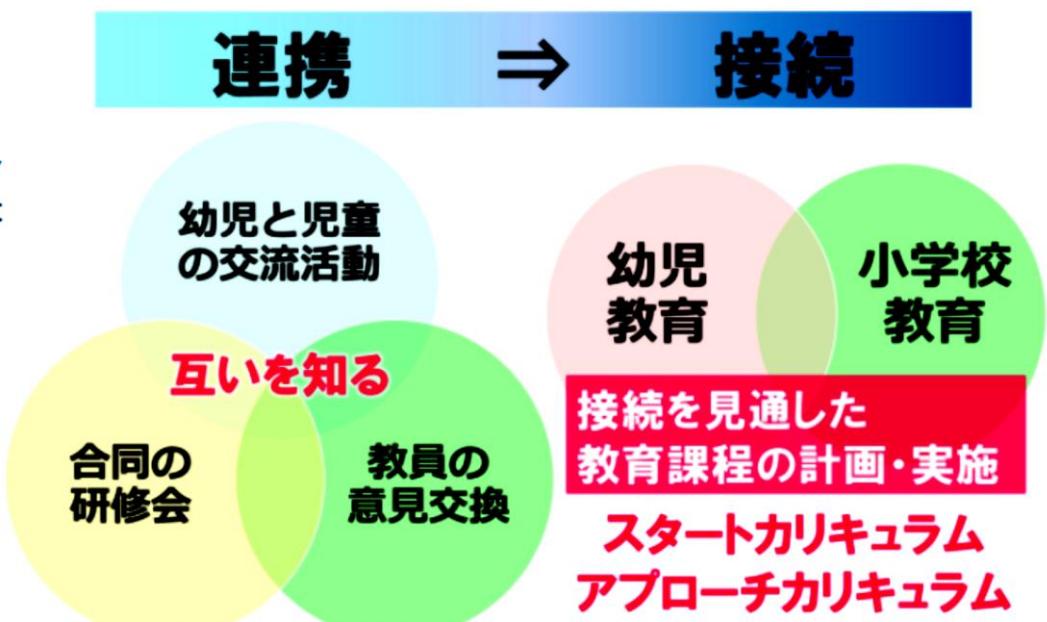
安心して自ら学びを広げる学習環境を整えよう

子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えましょう。子供の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で**子供を取り巻く学習環境を見直しましょう。**

幼児教育と小学校教育の接続を見通した教育課程

◎連携から接続へ

多くの小学校区で、幼小連携に取り組んでいます。これらの取組は、互いを知る上で大変重要です。そして、子どもたちの学びをつなぐには、接続を見通した教育課程の計画・実施が必要です。



ポイント(小学校)

小学校関係者の、幼児期の学びの理解の深化。

幼児期の遊びの中に存在する学びの本質を全教職員が共有する。

ポイント(幼児教育)

学びの連續性から、小学校の学びのあり方について、幼児教育の実践的省察から責任を保つ。

幼児期の学びが、教科の中でどのように発揮されているか責任を保つ。



ワーク4
幼保小の連携で大切にしたいことは何ですか？
(小学校教育の立場・幼児教育の立場、どちらであるかを明確にして)